

地域課題① 健全な財政運営に向けた検討や、組織の見直しによる役員等の負担軽減

★具体的取組の例

- 住民合意に基づく会費収入に見合った事業運営の見直し
- 公民館類似施設運営・活動費補助金の有効活用

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	17	63%
取り組まなかった	10	37%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・コロナ禍により教養部事業が減少したことから、主事と教養部長を兼務することにし、役員を1名減らした。(手当の削減)
- ・「自治会財政見直し指針」に基づく予算の検討を行った。
- ・自治会組織検討委員会を設置し、現在継続して検討している。(役員の選出方法、各部の合併再編成、人数等)
- ・若者が集落を離れ、老人世帯が増加し役員のなり手が不足したため、4部から3部体制にして組織の見直しを図った。
- ・役員のなり手が不足しているため、役員が揃って話し合う機会は年3回位で後は電話でのやり取りで済ませた。
- ・自治会費及び組織の見直しを行った。住民負担軽減のため自治会費を78%に減額。各報酬等も2割カットし現状に合った組織改革を行い、役員を1名減にした。ただし、各行事の予算は減らさないで現状維持。
- ・将来まで持続可能な取り組みが必要。2019年から自治会役員で今後の自治会費のあり方(改革)について話し合いを始めている。
- ・世帯数の減少、人口の減少に見合った事業を行うこととし、徴収金の減額を図った。
- ・毎月開催している定例役員会を、急を要する議題等がないときは開催しないこととし、役員の負担軽減を図った。
- ・役員の負担軽減のため、事業内容などの見直しを行った。
- ・仕事をしながら自治会長を務められるようにした。
- ・令和2年度から常勤職員を廃止した。
- ・令和3年度から自治会費算定基準の全面改正を行った。
- ・自治会組織、機構を見直す検討会議を行った。

地域課題② 将来を見据えた単位自治組織の検討

★具体的取組の例

- SNSの活用など新しい生活様式の導入
- 若者や女性等、多様な人材の活躍の場づくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	14	52%
取り組まなかった	13	48%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・地縁団体への移行(共有財産の登記)
- ・役員同士LINEでやり取りを行い、会議の日程等を連絡できるようにした。

- ・ 役員の連絡を LINE で実施しようと思いメンバー集めをしているところであるが、いまだに LINE をしていない方もいるので困る。
- ・ 行事や運営のあり方の話し合いの段階である。
- ・ 各部所の合併等（兼務できるもの）で部の数を減らし、スムーズな体制に改革した。
- ・ 役員での議論、検討の内容（素案）について、コロナ禍のため自治会員の皆さんに提案（投げかけ）できない状況が続いている。お互いの意見交換を行いながら方向を見据えていく。将来は高齢化世帯の 1 人・2 人暮らしの負担を考えたい。
- ・ 自治会役員や他団体役員にも女性の参加を呼びかけ、複数名の方から役員として協力いただいた。
- ・ 人口減少を見据え、一人一役、全員参加の協力を呼びかけた。
- ・ 自治会予算を実績に合わせた予算とし、離村等で自治会費を減収するときは、その額分事業費を減らす。

地域課題③ 安全で安心して暮らせる防犯・防災対策の推進

★具体的取組の例

- 住民が災害対策意識を強く持つように、定期的な避難訓練と有事に備えた話し合いの機会や講習会の開催
- 自主防災組織の機能点検

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	15	56%
取り組まなかった	12	44%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・ 全自治会会員による避難訓練を行うとともに、有事に備え防災備品等の使い方、保管場所の確保や点検を行った。
- ・ 防災計画書を作成した。
- ・ コロナ禍のため避難訓練は行わなかったが、自主防災計画書を配布し理解を深めてもらった。
- ・ 集落の一日研修会で温海分署の協力を得て、公民館で救急救命の講習を行った。
- ・ 毎年同じ内容の自主防災訓練でなく、昨年は「防災サポート出前講座」を活用し、住民の防災意識の高揚に努めた。
- ・ 防災倉庫を設置しており、今後防災備品をそろえて役員に確認してもらう予定。地区自治会の役員で防災研修会を実施した。
- ・ コロナ禍ではあったが、住民参加の計画を通してコミュニケーションを図り「不安」の減少に取り組んだ。
- ・ 12月3日の火災記念日、6月18日の山形県沖地震を忘れないために、毎年行動（夕方、公民館前に自治会役員、消防幹部集合）し、有線放送、パトロールで意識を確認し合っている。
- ・ 震度7の地震発生を想定し、高齢者の避難と安否確認を重点とした避難訓練を行い、防災意識を高めた。
- ・ 自主防災会による空き家などの予防査察を行った。
- ・ 初期消火訓練、小学生による火の用心活動を実施した。
- ・ 老朽化した有線放送設備に替えて無線放送設備を整備し、引き続き市の防災無線を各家庭でも聞けるようにした。

地域課題④ 次代を担う若者や子どもたちを取り巻く環境づくり

★具体的取組の例

- 世代間交流などによる伝統行事や伝統文化の継承への動機づけと支援
- 地域理解を深めるための学習支援

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	8	30%
取り組まなかった	19	70%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・公民館事業の実施
- ・子供の減少により何も行っていない。伝統芸能等の継承ができない。(考えていかなければならない)
- ・若者が温海地域を離れるのを止める手立てがない。
- ・コロナ禍により2年間祭典が中止となり、獅子舞等の伝統芸能の継承が希薄になる。令和4年は何としても実施することの決意を若い世代で共有した。「コロナ共存、ウィズコロナ」
- ・地区自治会で漁業体験、おもしろ実験教室を実施した。放課後子ども教室に対して公民館でも協力している。
- ・コロナ禍で中止となったが、「リーダー研修会」の受入れ等の検討をすすめ、集落内・外に集落の伝統を伝える手段を発見することができた。
- ・当自治会は、小学生5人、中学生1人、高校生4人、保育園児は0人。将来的に、地域で子どもを育む環境整備を真剣に考える必要がある。
- ・集落に残る伝統芸能の保存活動・伝承活動を子供たちと行った。
- ・世代間交流を兼ねて運動会や芋煮会、そば感謝祭を実施し、住民の親睦を図った。

地域課題⑤ 高齢者等福祉の視点に立ったコミュニティづくり

★具体的取組の例

- 高齢者が持つ知識や経験を活かした地域づくりの推進
- 日常生活での見守り・支え合い体制の仕組みづくりと強化

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	17	63%
取り組まなかった	10	37%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・老人クラブが行う健康づくり、レクリエーション等に公民館施設の開放を積極的に行い、推進に努めた。
- ・百歳体操等実施している。
- ・ミニデイサービス以外の取り組みができていない。民生委員の力に頼っているのが現状。
- ・花いっぱい運動を実施した。
- ・お年寄りを中心に「なり元気塾」を開催してきたが、コロナ感染拡大により中止となった。
- ・コロナ禍で高齢者の行事が中止になる中で、集落の奉仕作業を4回行い、高齢者同士のコミュニケーションを促進した。

- ・地域の女性会と民生委員で1人暮らしの高齢者に月1回（毎月20日）あたたか弁当を届けている。
- ・コロナにより夏祭り等ができず残念だった。
- ・健康座談会を通し、健康づくりを図った。
- ・当自治会では、数年前に老人クラブが解散している。会長、副会長、会計等の担い手がない。
- ・老人クラブ会員が中心となり健康教室を開催し、介護予防、健康づくりを図った。
- ・高齢者を対象とした健康教室（ICT）を開催し、健康づくりを図った。
- ・生き生き百歳体操クラブを設立した。
- ・新たにスマホ教室を行事として取り組んだ。（包括支援センターと共催）
- ・年3回の「おそうじボランティア」を実施した。65歳以上が対象で楽しそうに集まって話をしていた。平均35名位参加した。
- ・コロナのため敬老会は中止となったが、紅白まんじゅうを配り地域をあげて敬老を祝った。また、老人クラブに花植えを依頼し、集落内の環境整備に活躍してもらった。

地域課題⑥ 広域コミュニティ組織の検討

★具体的取組の例

○地区自治会の今後のあり方の検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	1	4%
取り組まなかった	26	96%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・温海地域に広域コミュニティ組織は馴染まないと思う。各集落単位での活動が長いため。
- ・地区自治会全体そして小学校区として、防災や学校行事に協力している。
- ・危機感がお互いに意識されれば幸いだが、何も感じないのであれば単位集落は無くなってしまおうと考える。そうなった場合は、広域コミュニティになるのかと？

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・消防団が無くなったことで防災体制の見直しが必要。
- ・空き家、廃屋が増え危険。
- ・高齢者のみの世帯の増加。
- ・代表者になれる年代が少ない。引き受けてくれる人がいない。
- ・少子高齢化により、行事のスムーズな運営が難しくなっている。神事、仏事のスリム化または簡素化して負担のかからない方法を考え中。
- ・役員のなり手不足、若者世代がいない。
- ・災害時、特に津波避難での体の不自由な方の避難をどうするか、自治会役員・民生委員・消防団と対策を練っている。
- ・ここ数年で少年会の人数が少なくなり、小学生3人、中学生3人になり活動が危ぶまれたが、少人数でも活動できる行事を模索しながら継続していくことを共有している。

- ・新型コロナウイルス感染防止の観点から、地域の祭典が3年連続神事のみとなっている。(当地の祭典は三密の最たるものである)
- ・高齢化に伴い、集落内活動の参加者が減少
- ・消雪道路の実現。
- ・課題と言うよりも超少子高齢化は社会現象であり、当自治会のことではないが将来(10年後、20年後以降)自分達の集落の姿を診断することがあればと考えている。
- ・職業の多様化により、有線放送だけでは情報伝達に限度がある。(毎月の自治会だよりで事業などの日程は周知している)
- ・流雪溝の管理が容易でない。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・消火器や消火栓を使用した初期消火訓練の実施。
- ・公民館を開放して子供、高齢者へのお茶飲み場(カフェ的なもの)、将棋、囲碁、ゲーム、遊び場の提供など。
- ・避難所の整備。
- ・趣味を活かした仲間づくり。
- ・高齢者が多く、公民館に椅子とテーブルを整備したい。(補助事業として)
- ・花いっぱい運動は、会員の高齢化もあり自治会員だけでなく団体を創設することで維持していく方法を検討する。
- ・「未来づくり委員会」を立ち上げ、いろいろな意見を吸い上げ、できる行事から取り組もうと、R4年度に計画している。
- ・今の自治会事業で、いっぱいである。
- ・集落内での全員参加の既存行事の継続。他集落では夏祭り等の廃止、老人クラブ等の解散がみられるが、創意工夫を行い継続事業がなくならないように努める。また、イノベーション勉強会を開催予定。
- ・新型コロナウイルスと共生できるようになり、通常どおりの行事(祭典、夏祭り等)ができるようになりたい。
- ・毎年行っている「雪灯籠祭り」の参加者を集落外からも募りたい。
- ・日常生活に必要な設備(ごみステーション・バス停)の整備。
- ・自治会内に例えば老人クラブ、青年会、婦人会、若妻会、各スポーツクラブ(ゲートボール、グランドゴルフ、野球部等)があれば、賑わいや活気生まれて、担い手や行動が自然に行われていくが、現在では各年代の人員がアンバランスのため、どのように自治活動を考えていけばよいのか難しい。
- ・集落運動会が人口減少のため(特に子供の減少)できなくなった。運動会に代わる軽スポーツを模索中。
- ・将来的には、自治会における高齢者福祉対策(屋根の雪おろし、自主除雪含む)が大きな課題となるが、それに携わる人も65才~70才まで常勤の時代で人材不足。
- ・自治会組織以外の組織との交流、自然文化の保存。
- ・集落内を流れる流雪溝は冬期間の重要な設備だが、延長が長く住民数の減少もあり維持管理が容易ではない(草刈り、土砂あげ)。取水部分も自然流水なので、大雨でたびたび壊され全体的な整備が必要。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・自治会に交付する総合交付金の充実（増額）を望む。
- ・ペーパーレス、IT 利用。
- ・やはり自分の住む集落の未来のシミュレーションを知ることから、村の将来をみんなで考えることが大事だと思う。
- ・「温海地域（中山間集落）を今後どう守るか」のテーマで小中高生及び若い方達との意見交換会を行いたい。最初に集落ごとに行い、さらに自治会長会等で実施できれば。お互いの志向・考え方が分かり合えるし、新しい形のコミュニティが生まれるのでは。
- ・新型コロナウイルスにより、地域の行事が中止となっている。コロナ禍の地域コミュニティのあり方が問われている。保育園、小中学校等との地域のつながりも薄れてきている。
- ・コロナ禍で計画していた事業が中止されてしまうことで、高齢者の引きこもりにつながってしまうことが心配される。楽しみと思ってもらえるよう、事業内容も検討し、参加しやすい事業に変更していくことが必要だと思われる。
- ・従来から地域には総合交付金等の助成があるが、将来的にもこの補助が可能なのか、今後自治会独自でやっていくことになるのかが自治会の役員としては心配をしている。
- ・子供がいないから活気が無い。集落の中を歩いている人がいない。
- ・デジタル化については、費用の件、情報発信者の選定、発信内容の決定など課題。